



都会にひそむ  
古代のロマン

港区に本格的な稻作農耕文化が伝わったのは、今からおよそ2千年前、弥生時代中期のことです。その後、国家が形成され、公家政権が国を動かし、やがて武家政権に変わっていく頃まで、時代名称でいえば、弥生時代から平安時代の終わりまでを、ここでは古代としておきましょう。

弥生時代の人々は初め、どちらかと言えば海岸寄りの高台に集落を営みました。三田台の辺りです（→7ページ）。時代が下るにつれ、彼らが活動する場所は内陸へ入り込んでいきます。麻布台や赤坂台では、卑弥呼が活躍した3世紀の遺跡が10ヵ所程発見されています。もちろん、三田台や高輪台といった海岸寄りの高台にも集落は形成され続けます。

次いで古墳時代には、4世紀の終わり、もしくは5世紀の初めの頃、現在の芝公園に南武藏で最大級の前方後円墳といわれている芝丸山古墳が築造されます（→4ページ）。港区には20基の古墳が存在したとされていますが、形状その他がある程度明瞭な、現在でも築造当時の姿を髣髴<sup>はうふつ</sup>させる古墳は、芝丸山古墳をおいて他にありません。その芝丸山古墳の周辺にはかつて、10基余の円墳が点在していました。これらの古墳は、いずれも江戸時代以降の土木工事等によって消え失せてしまいました。

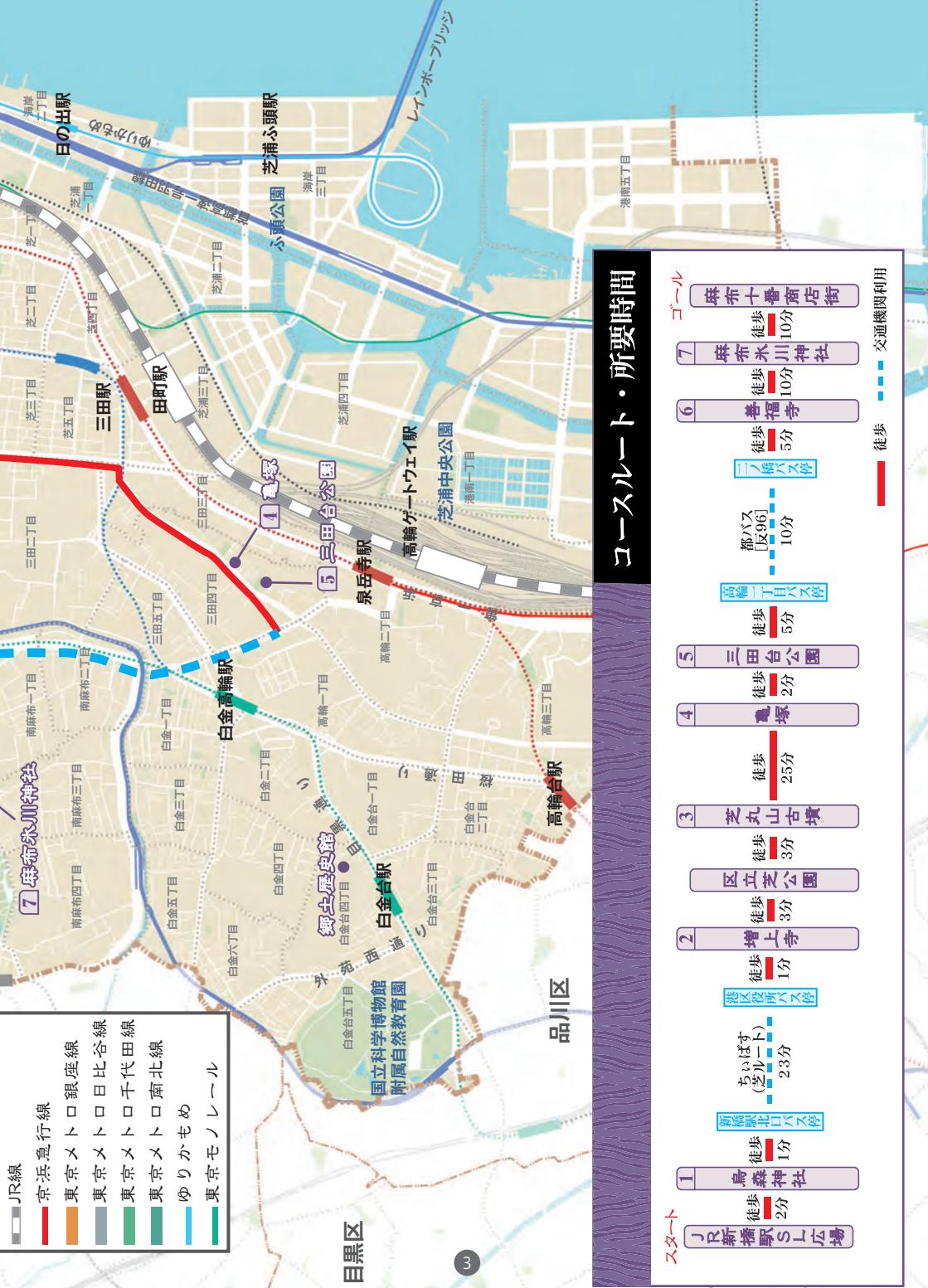
ところで、三田台から高輪台にかけて、

古代の官道が通じていたとする説があります。このことを裏付けるかのように、聖坂上から二本榎通り沿いにかけて、弥生時代から平安時代の遺跡が点々と発見されています。この付近を通って、父親の赴任先であった上総国（現千葉県）から、父親と共に帰京したといわれている一人の女性がいました。すがわらたかすみのむすめ『更級日記』の作者菅原孝標女です。時は11世紀前半、平将門の乱からおよそ1世紀、藤原北家が強大な勢力をもち貴族政治が発達する中、国風文化の創造が始まった時代でした。『更級日記』は作者の回想録ですが、ここに記された竹芝寺の故地を、今の亀塚（→7ページ）・済海寺（→39ページ）付近と見る向きがあります。

麻布もまた、区内で古くから開かれた土地の一つです。平安時代前半に創建されたとされる善福寺（→8ページ）、平将門との因縁が考えられる麻布氷川神社（→8ページ）など、港区の古代史をつづる上で不可欠な史跡・旧跡が少なくありません。

古代の港区は、未だ謎に富んだ世界です。少し想像をたくましくしながら、古代の史跡・旧跡をめぐってみませんか。新たな発見があるかもしれません。







神社の伝承によれば創建は天慶3年（940）にさかのぼるそうです。武士同士の争いが続く関東では、天慶2年（939）に平将門が兵を挙げ関東8カ国を制圧します。乱の鎮圧を命じられたのが平貞盛と、むかで退治の伝説で著名な「俵藤太」こと藤原秀郷でした。秀郷がある稻荷社に戦勝祈願したところ、白狐が現れ白矢を与えた。秀郷はその矢をもって将門を討ち取ることができたので、お礼に建立したのが烏森神社だといわれています。これはあくまで伝説ですが、享徳4年（1455）に鎌倉公方足利成氏が出した戦勝祈願の文書が残されていますので、遅くとも室町時代にはさかのぼります（文書は非公開です）。

また、貞享4年（1687）の地誌『江戸鹿子』によれば、元暦元年（1184）に秀郷の子孫下河辺行平が寄進した鰐口（鉦のよなうな銅製の仏具）があったそうです。



全長100mをこえる都内最大級の前方後円墳です。標高約16mの台地の端にあります。江戸時代の増上寺の建立や近代以降の開発によって、かなり原形が損なわれています。明治31年（1898）、東京帝国大学（現東京大学）の坪井正五郎（1863～1913）により発掘調査が行われ、埋葬施設が失われていたことがわかりました。また、以前は周辺に10基の円墳群があり、前方後円墳に関係するものと考えられていましたが、戦後に行われた明治大学の調査によって、両者の築造時期がかなり離れており、円墳群の方が200年ほど新しいことがわかりました（円墳群は今はあります）。現在、古墳の裾近くに碑と説明板が建っています。

都指





## コラム

### ぞうじょうじ 増上寺

江戸の寺院の中で最も大きく、格式が高かったのが、上野の寛永寺と芝の増上寺です。この2つの寺院には徳川將軍家の墓所が造営され、増上寺には徳川將軍15代のうち、2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6人が葬られています。

江戸時代以前の増上寺については詳しいことはわかつていませんが、室町時代に真言宗から浄土宗に改宗したようです。また、もとは今の千代田区麹町・紀尾井町のあたりにあり、徳川家康が江戸に入府した時にたまたま門前を通りかかり、住持の源誉存応に会い、これがきっかけで菩提寺となったといわれています。その後、日比谷に移り、慶長3年（1598）に家康の命によりこの地に移りました。

現在の芝公園はほぼ昔の増上寺の境内にあたり、数多くの文化財がありました。

東京大空襲でほとんど焼失してしまいましたが、三解脱門（国重要文化財）などは戦禍をまぬがれ現存します。※令和6年秋より、修復工事のため、拝観できないこともあります。工事完了は、令和14年11月頃の予定です。

#### コース②



広重 東都名所 芝神明増上寺全図

## 郷土歴史館

所 白金台4-6-2



港区立郷土歴史館は、昭和13年（1938）に竣工した旧公衆衛生院の建物を耐震補強やバリアフリー化を行い、がん在宅緩和ケア支援センター、あっぷい白金台、白金台学童クラブ、白金台区民協働スペース、白金台駅自転車駐車場との複合施設として、改修工事を行いました。

中央階段や旧講堂、照明器具など、建物のいたるところに、旧公衆衛生院当時の面影が残っています。

郷土歴史館の展示室は、無料ゾーンの港区のあらましを紹介するガイダンスルーム、実物の資料を触ることができるコミュニケーションルームのほか、港区のテーマに沿った展示を行う有料の常設展示室、期間を定めて開催する特別展示室が整備されて



います。

また、ミュージアムショップやカフェを設置しており、誰もが利用することができます。

時 間	日曜日～金曜日、祝日 9:00～17:00 土曜日9:00～20:00
休 館 日	第3木曜日、年末年始(12/29～1/3) 臨時休館日、特別整理期間
料 金	常設展は大人300円、小中高生100円、 未就学児無料 区内在住の65歳以上、区内在住、在学の 小中高生等無料(証明するもの持参) 特別展・企画展は、展示ごとに設定
問い合わせ	03-6450-2107



## コラム

たかなわかいかん  
高輪海岸

現在の第一京浜国道は江戸時代には東海道として知られており、海岸を通る主要道路でした。浮世絵に当時の賑やかな東海道の様子が描かれています。



※画像は港区立郷土歴史館提供



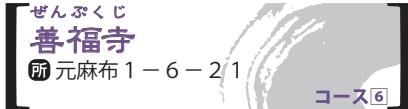
現状で直径約30m、高さ約4mの円形の塚で、古墳の可能性も指摘されていますが断定はできていません。周辺の地域からは古代の住居跡や貝塚が発見されており、公園内からも弥生時代の集落跡が発掘されました（亀塚公園遺跡）。江戸時代に入ると、ここは上野沼田藩土岐家の下屋敷となりました。山頂には寛延3年（1750）に藩主頼熙が建てた亀山碑が残されています。亀塚と済海寺の一帯は、平安時代に菅原孝標の妹が記した『更級日記』に登場する竹芝寺の跡地といわれており、亀山碑にもこのことが刻まれています。また、文明年間（1469～87）には江戸城の城主太田道灌がここに斥候（見張り）を置いたともいわれています。亀塚の由来や亀山碑については、江戸時代後期の地誌『江戸名所図会』にも記されていますので、この頃には広く知られた存在であったようです。

都指



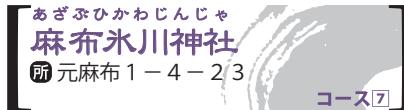
ここから100mほど南東の地点（三田4-19-15 NTTデータ三田ビル本館）において、昭和53年（1978）7月から約1年半かけて発掘調査が行われました。遺跡からは、江戸時代の犬・猫の墓石・供養塔、古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡、弥生時代中期の方形周溝墓（方形に溝をめぐらせ、内側に盛り土をしてつくられた墓）、縄文時代後期の貝塚と竪穴住居跡が順に重なって発見されました。この遺跡は伊皿子貝塚遺跡と名付けられ、貝層の断面と出土品は郷土歴史館に保存・展示されています（→6ページ）。三田台公園は港区で初めての遺跡公園として、貝層の断面と竪穴住居を復元したレプリカを展示しました。ここでは原始・古代の人々の生活の様子をることができます。





寺伝によれば天長元年（824）に空海が開山したとされる港区を代表する古刹です。当初は真言宗の寺院でしたが、鎌倉時代に親鸞が当寺を訪れた際、住持の了海が親鸞に帰依し、浄土真宗に改宗しました。善福寺を中心とした門徒集団を「阿佐布門徒」といい、品川など江戸周辺に布教を進め、南関東における浄土真宗の大きな拠点となります。その後、江戸時代に入り、徳川幕府から高10石の朱印地を与えられ、江戸における一向宗の有力寺院として多くの末寺を抱えました。

都内最古とされるイチョウ（国指定天然記念物）、木造了海坐像（国重要文化財、非公開）、慶長12年（1607）に大坂八尾の東本願寺八尾別院本堂を移築したとされる善福寺本堂（区指定文化財）など貴重な文化財が残されています。



麻布地域の惣鎮守です。天慶年間に源經基が平将門の乱を平定するため関東に下った時に創建したという伝承があります。また、享保17年（1732）に書かれた江戸の地誌『江戸砂子』や天保5・7年（1834・36）に出版された地誌『江戸名所図会』などによれば、文明年間（1469～87）に江戸城の城主太田道灌が勧請したという説も紹介されています。また、創建当初は2,000坪の広大な境内地を持っていましたが、増上寺の所領となつたため、寛文2年（1662）にこの地に遷ってきたといわれています。

麻布氷川神社、善福寺のある元麻布から南麻布にかけて、多くの古代の遺跡が発見されています。

